

研究所の新組織発足に当って

取締役研究所長 井 本 利 一 郎

「イデオロギーは、宝物と同じく、しょせんは、ナショナリズムにはかなわない。そのナショナリズムも、しょせんは、テクノロジーにはかなわない。」とは、かの有名なトインビーの言ですが、二十世紀の文明は、エレクトロニクス、原子力、さらにまた「悪魔の醸造物」石油を利用する新しい技術に支えられて、たくましい発展をつづけてきました。

そして、わが国の産業社会は、いまや、世界の先進国に伍して、ポスト・インダストリアル・ソサイエティの実現に向けて着着と転換を具体化しています。

雲の隙間から忽焉と射光するアイデアのヒラメキ——そこから新しい技術が生まれます。そのアイデアを育て、それを企業に結びつけていくのが、わたくしどもの行なっている研究であり開発であります。

わたくしどもの研究所は、東洋曹達工業株式会社 研究部という組織のもとで、いままで研究活動を続けていましたが、このたび、東洋曹達工業株式会社 研究所と改名し、従来の室制度を改組して、三部、一室制度で新しく発足することになりました。各部には、研究内容に応じてそれぞれのグループをつくり、グループ・リーダーには若手の有能な研究員をも機動的に任命できるようにして、各研究員の力をフルに発揮させ、企業の原動力である研究活動を活発にくり広げるような体制を整えました。

創造性のある研究員の養成、その創造力を育てる好適な環境の整備——そうしたことが、基礎研究、応用研究等の分野では、特に必要かと思えます。

また、企業体の研究所では、終局的には、研究の成果を企業利益に結びつけることが絶対命題であるので、研究目標の明確化、方針の設定、実践方法の立案といったことから研究題目の選定、評価を含む高次の企業経営理念の導入による運営が要請されていることも特筆する必要があります。

「研究はもっともよい投資である。そして PROFITABLE なものである。」といった信条を堅持して、今後の研究活動を強力に進めて行きたいと考えています。

研究部門に対する、トップス並びに各部門の方々の平素の御厚情に感謝するとともに、今後ともなお一層の御指導と御支援をお願いする次第であります。

研究所の新組織の発足に当って以上のとおり、抱負の一端を披瀝して御挨拶といたします。